2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月11日

上場会社名　　株式会社共和コーポレーション　　上場取引所　東
コード番号　　6570　　ＵＲＬ　https://www.kyowa-corp.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）宮本　和彦
問合せ先責任者　（役職名）執行役員経営企画室長兼経理部長　（氏名）酒井　孝幸　　（ＴＥＬ）026(227)1301
半期報告書提出予定日　　2026年11月11日　　配当支払開始予定日　2026年12月10日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	16,299	67.8	1,929	145.2	1,946	150.2	1,150	142.4
2026年３月期中間期	9,713	18.7	786	27.4	777	27.0	474	27.1

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,191百万円（127.9%）　2026年３月期中間期　522百万円（25.2%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	192.36	191.95
2026年３月期中間期	79.60	79.26

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	22,825	7,014	30.7
2026年３月期	18,629	5,897	31.7

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　7,014百万円　2026年３月期　5,897百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	12.50	―	12.50	25.00
2027年３月期	―	20.00			
2027年３月期(予想)			―	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,273	50.9	3,315	88.6	3,302	89.6	1,964	75.0	328.17

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	6,080,130株	2026年３月期	6,080,130株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	95,380株	2026年３月期	99,343株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	5,981,260株	2026年３月期中間期	5,963,518株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料Ｐ．４「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

決算補足説明資料の有無：有(2026年11月11日に当社ホームページに掲載予定)

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… ２
（１）当中間期の経営成績の概況 …… ２
（２）当中間期の財政状態の概況 …… ３
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… ４
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… ５
（１）中間連結貸借対照表 …… ５
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… ７
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… ９
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… １０
(セグメント情報等の注記) …… １０
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) …… １２
(継続企業の前提に関する注記) …… １２
(重要な後発事象の注記) …… １２

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当社グループは「３つの楽しみ（顧客満足の楽しみ、一生懸命の楽しみ、実践と行動の楽しみ）」の経営理念のもと、お客様と私たち従業員の「楽しみ」創出のために、日々事業活動を推進しております。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇による個人消費への影響に加え、中東情勢をはじめとする地政学的リスクや為替相場、原材料・エネルギー価格の変動など、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループの主力事業でありますアミューズメント施設運営事業では、引き続き景品ゲームジャンルが好調を維持しており、店舗はご家族連れのお客様等で賑わいをみせております。また、株式会社ブルームの商品販売が伸長したことに加え、道楽株式会社を含むトレーディングカード販売事業においても売上高が拡大し、グループ全体の売上高及び利益を押し上げました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は16,299,598千円（前年同中間期比67.8%増）、営業利益は1,929,686千円（同145.2%増）、経常利益は1,946,386千円（同150.2%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,150,566千円（同142.4%増）となりました。

当中間連結会計期間におけるセグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、トレーディングカード関連事業の事業規模拡大に伴い、従来「その他」に含めていた「トレーディングカード販売事業」を新たな報告セグメントとして区分しており、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

①　アミューズメント施設運営事業

アミューズメント施設運営事業におきましては、「明るい・安心・三世代」をテーマに、清潔な店舗づくりと丁寧な接客に取り組んでおります。

また、アミューズメント業界全体における景品ゲームの人気は引き続き高い水準を維持しており、当社においても景品ゲーム機の増台やバラエティ感溢れる景品ラインアップの充実に努めてまいりました。さらに、新たな店舗展開の取り組みとして、景品ゲームを中心としたサブブランド「クレーンパラダイス」の展開を開始いたしました。景品ゲームの楽しさを幅広い世代のお客様に体験していただける店舗づくりを目指し、景品構成や売場づくりに工夫を凝らすとともに、多様化するお客様のニーズへの対応に努めております。これにより、店舗形態の多様化が進み、新たな顧客層の獲得と集客力の向上につながりました。

出退店につきましては、７月にサブブランド「クレーンパラダイス」の第１号店となる「クレーンパラダイス諏訪店」を、８月には岡山県で初出店となる「アピナ高梁店」など計６店舗を新規出店いたしました。これにより、当中間連結会計期間末での総店舗数は79店舗となっております。新たな出店機会を捉え、店舗網の拡大を着実に進めたことが、売上高の増加につながっております。また、新規出店に伴う費用負担が増加する中においても、増収効果がこれを上回り、利益の増加に寄与いたしました。

以上の結果、アミューズメント施設運営事業における売上高は12,022,614千円（前年同中間期比33.7%増）、セグメント利益（営業利益）は1,712,427千円（同64.4%増）となりました。

②　アミューズメント機器販売事業

アミューズメント機器販売事業におきましては、アミューズメント業界全体における景品ゲームの人気が引き続き高い水準を維持しており、景品ゲーム機器及び景品に対する需要も底堅く推移いたしました。景品販売におきましては、ぬいぐるみやフィギュア、小型家電等の幅広いジャンルの商品を取り揃え、多様化するお客様のニーズに対応するとともに、販売機会の拡大に努めております。また、人気が高まっているスクイーズを活用したオリジナル景品の販売にも注力し、商品ラインアップの拡充を通じて、景品販売の強化に取り組んでまいりました。また、景品ゲーム機器の販売におきましても、景品ゲームの人気継続に伴う需要の高まりを捉え、販売台数が増加いたしました。景品ゲーム機器の販売は、導入先における新たな景品需要の創出にもつながる事から、機器と景品の双方を取り扱う当事業の強みを活かし、継続的な販売機会の拡大を図りました。

以上の結果、売上高は401,502千円（前年同中間期比144.7%増）、セグメント利益（営業利益）は153,193千円（同38.6%増）となりました。

③　トレーディングカード販売事業

トレーディングカード販売事業につきましては、国内外におけるトレーディングカードの人気の高まりやコレクター需要の拡大を背景に、新品及び中古カードの販売・買取が堅調に推移いたしました。当社が展開する「トレーディングカードピット」では、各種大会やイベントの開催を通じて、集客力の向上と販売機会の拡大に努め、前連結会計年度に子会社化した道楽株式会社が運営する「トレカ道楽」においては、希少性の高いカードをはじめとする幅広い商品の販売・買取を展開し、多様化するお客様のニーズへの対応に取り組んでまいりまし

た。さらに、両事業が有する顧客基盤や商品流通網を活かし、相互送客や商品流通等における連携を進めることで、グループ全体での販売機会の拡大と収益力の向上に努めております。

出退店につきましては、７月には栃木県に当社が運営する「トレーディングカードピット小山駅前店」、８月には神奈川県に道楽株式会社が運営する「トレカ道楽横浜西口店」をそれぞれ新規出店いたしました。これにより、当中間連結会計期間末における店舗数は、当社が展開する「トレーディングカードピット」が５店舗、道楽株式会社が展開する「トレカ道楽」が５店舗となりました。

以上の結果、売上高は2,629,233千円（前年中間期比5456.0％増）、セグメント利益（営業利益）は132,561千円（前年同期はセグメント損失830千円）となりました。

④　その他事業

その他事業とは、主に各種媒体を利用した広告代理店業や、当社が所有する不動産の賃貸業、並びに子会社である株式会社ブルームの商品販売であります。株式会社ブルームの商品販売につきましては、スクイーズ商品の人気が引き続き高い水準を維持しており、既存の常設店舗での販売が好調に推移したほか、ポップアップ店舗の展開や一部店舗の常設店化など、販売拠点の拡充が売上高の増加に寄与いたしました。また、訪日外国人のお客様を含む幅広い顧客層から支持を集めており、オリジナル商品の開発や人気IPとのコラボレーション商品の展開を通じて、商品ラインアップの充実と新たな顧客層の獲得に取り組んでおります。

出退店につきましては、８月に愛知県でポップアップとして出店していた「MOOOSH SQUISHY 中部国際空港店」が常設店舗に移行し、同月には東京都渋谷区に「MOOOSH SQUISHY SoLaDo原宿店」を新規出店いたしました。これにより、当中間連結会計期間末における常設店舗数は、４店舗となりました。

以上の結果、売上高は1,246,247千円（前年同中間期比143.5％増）、セグメント利益（営業利益）は371,605千円（同3099.3％増）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①　資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比較して4,195,950千円増加し、22,825,566千円となりました。この要因は有価証券が200,000千円減少したものの、現金及び預金が3,431,210千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較して3,078,886千円増加し、15,810,645千円となりました。この要因は、未払金が383,785千円減少したものの、長期借入金が2,018,236千円、支払手形及び買掛金が588,035千円それぞれ増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比較して1,117,064千円増加し、7,014,920千円となりました。この要因は、利益剰余金が1,075,806千円増加したこと等によるものであります。

②　キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、7,838,297千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は3,276,474千円（前年同中間期は2,148,220千円の獲得）となりました。これは、減価償却費1,307,326千円、税金等調整前中間純利益1,946,386千円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は2,188,529千円（前年同中間期は1,917,787千円の使用）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出2,397,476千円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は2,370,265千円（前年同中間期は532,271千円の獲得）となりました。これは、長期借入れによる収入3,500,000千円、長期借入金の返済による支出1,055,780千円等によるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年５月13日に開示いたしました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、2026年11月11日開示の「2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,015,386	8,446,597
売掛金	1,124,246	1,199,132
有価証券	200,000	―
商品	518,810	534,186
貯蔵品	348,205	531,371
リース投資資産	148,419	102,928
その他	357,794	376,896
流動資産合計	7,712,863	11,191,112
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント機器（純額）	3,982,842	4,140,097
建物及び構築物（純額）	2,438,870	2,779,353
工具、器具及び備品（純額）	586,328	643,197
土地	1,050,607	1,165,972
建設仮勘定	73,510	3,550
その他（純額）	33,980	42,131
有形固定資産合計	8,166,140	8,774,301
無形固定資産		
のれん	169,308	152,377
その他	34,536	29,319
無形固定資産合計	203,845	181,697
投資その他の資産		
投資有価証券	381,099	440,011
繰延税金資産	270,234	295,762
敷金及び保証金	1,651,823	1,747,540
その他	259,010	210,542
貸倒引当金	△15,402	△15,402
投資その他の資産合計	2,546,766	2,678,454
固定資産合計	10,916,752	11,634,454
資産合計	18,629,615	22,825,566

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,782,904	2,370,939
１年内返済予定の長期借入金	1,818,900	2,244,884
未払金	1,356,002	972,217
未払法人税等	530,042	898,808
賞与引当金	148,424	173,897
その他	1,228,734	1,140,399
流動負債合計	6,865,008	7,801,146
固定負債		
長期借入金	4,820,424	6,838,660
資産除去債務	1,014,922	1,130,833
その他	31,404	40,006
固定負債合計	5,866,751	8,009,499
負債合計	12,731,759	15,810,645
純資産の部		
株主資本		
資本金	709,709	709,709
資本剰余金	501,427	500,966
利益剰余金	4,512,370	5,588,177
自己株式	△35,353	△34,071
株主資本合計	5,688,154	6,764,781
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	209,701	250,138
その他の包括利益累計額合計	209,701	250,138
純資産合計	5,897,856	7,014,920
負債純資産合計	18,629,615	22,825,566

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	9,713,876	16,299,598
売上原価	4,676,890	8,790,546
売上総利益	5,036,985	7,509,051
販売費及び一般管理費	4,250,043	5,579,365
営業利益	786,942	1,929,686
営業外収益		
受取利息	3,838	7,116
受取配当金	2,824	3,660
太陽光売電収入	3,664	3,683
自販機設置協賛金	4,090	4,654
受取保険金	－	40,746
その他	3,501	3,785
営業外収益合計	17,920	63,647
営業外費用		
支払利息	25,118	45,247
その他	1,788	1,700
営業外費用合計	26,906	46,947
経常利益	777,955	1,946,386
税金等調整前中間純利益	777,955	1,946,386
法人税、住民税及び事業税	312,562	839,821
法人税等調整額	△9,273	△44,001
法人税等合計	303,288	795,819
中間純利益	474,667	1,150,566
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純利益	474,667	1,150,566

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	474,667	1,150,566
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47,908	40,436
その他の包括利益合計	47,908	40,436
中間包括利益	522,575	1,191,003
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	522,575	1,191,003
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	777,955	1,946,386
減価償却費	1,066,288	1,307,326
のれん償却額	－	16,930
受取利息及び受取配当金	△6,663	△10,777
受取保険金	－	△40,746
支払利息	25,118	45,247
売上債権の増減額（△は増加）	67,785	△74,885
棚卸資産の増減額（△は増加）	22,008	△198,542
リース投資資産の増減額（△は増加）	38,545	45,491
仕入債務の増減額（△は減少）	106,847	510,554
賞与引当金の増減額（△は減少）	15,740	25,472
未払金の増減額（△は減少）	112,249	98,445
未払消費税等の増減額（△は減少）	125,734	91,045
その他	105,676	26,798
小計	2,457,286	3,788,746
利息及び配当金の受取額	6,550	10,903
利息の支払額	△24,832	△46,492
法人税等の支払額	△290,782	△476,683
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,148,220	3,276,474
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	－	200,000
有形固定資産の取得による支出	△1,819,283	△2,397,476
無形固定資産の取得による支出	△2,118	△1,260
定期預金の預入による支出	△347,500	△560,700
定期預金の払戻による収入	374,500	587,700
投資有価証券の取得による支出	△1,050	－
敷金及び保証金の差入による支出	△95,456	△104,025
保険積立金の積立による支出	△311	△311
保険積立金の解約による収入	－	87,610
その他	△26,568	△66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,917,787	△2,188,529
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,500,000	3,500,000
長期借入金の返済による支出	△909,690	△1,055,780
自己株式の取得による支出	－	△146
ストックオプションの行使による収入	1,452	968
配当金の支払額	△59,490	△74,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	532,271	2,370,265
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	762,704	3,458,210
現金及び現金同等物の期首残高	4,064,674	4,380,086
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,827,379	7,838,297

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注１）	合計	調整額（注２）	中間連結損益計算書計上額（注３）
	アミューズメント施設運営	アミューズメント機器販売	トレーディングカード販売	計				
売上高								
北海道	90,427	－	－	90,427	－	90,427	－	90,427
東北	620,684	－	－	620,684	－	620,684	－	620,684
関東	2,642,922	164,074	－	2,806,997	274,585	3,081,582	－	3,081,582
甲信越	2,074,048	－	47,322	2,121,371	225,929	2,347,300	－	2,347,300
北陸	455,955	－	－	455,955	－	455,955	－	455,955
東海	1,956,581	－	－	1,956,581	－	1,956,581	－	1,956,581
近畿	401,873	－	－	401,873	－	401,873	－	401,873
中国	600,695	－	－	600,695	－	600,695	－	600,695
四国	110,696	－	－	110,696	－	110,696	－	110,696
九州	－	－	－	－	－	－	－	－
その他（注４）	36,759	－	－	36,759	－	36,759	－	36,759
顧客との契約から生じる収益	8,990,646	164,074	47,322	9,202,044	500,514	9,702,558	－	9,702,558
その他の収益	－	－	－	－	11,317	11,317	－	11,317
外部顧客への売上高	8,990,646	164,074	47,322	9,202,044	511,832	9,713,876	－	9,713,876
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	97	－	97	3,609	3,707	△3,707	－
計	8,990,646	164,172	47,322	9,202,141	515,442	9,717,583	△3,707	9,713,876
セグメント利益又は損失（△）	1,041,876	110,556	△830	1,151,603	11,615	1,163,218	△376,275	786,942

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業並びに玩具、雑貨等の企画、開発及び販売等を含んでおります。

２．調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．「その他」は、各店舗に設置した自動販売機の受取手数料等の金額であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注１）	合計	調整額（注２）	中間連結損益計算書計上額（注３）
	アミューズメント施設運営	アミューズメント機器販売	トレーディングカード販売	計				
売上高								
北海道	105,297	－	－	105,297	－	105,297	－	105,297
東北	836,196	－	279,727	1,115,923	－	1,115,923	－	1,115,923
関東	3,080,934	401,502	607,995	4,090,432	988,155	5,078,587	－	5,078,587
甲信越	2,897,303	－	214,576	3,111,879	241,088	3,352,967	－	3,352,967
北陸	491,271	－	－	491,271	－	491,271	－	491,271
東海	2,810,036	－	－	2,810,036	－	2,810,036	－	2,810,036
近畿	612,774	－	1,084,825	1,697,599	－	1,697,599	－	1,697,599
中国	1,025,556	－	－	1,025,556	－	1,025,556	－	1,025,556
四国	128,129	－	－	128,129	－	128,129	－	128,129
九州	－	－	442,108	442,108	－	442,108	－	442,108
その他(注４)	35,116	－	－	35,116	－	35,116	－	35,116
顧客との契約から生じる収益	12,022,614	401,502	2,629,233	15,053,350	1,229,243	16,282,593	－	16,282,593
その他の収益	－	－	－	－	17,004	17,004	－	17,004
外部顧客への売上高	12,022,614	401,502	2,629,233	15,053,350	1,246,247	16,299,598	－	16,299,598
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	450	－	450	30,898	31,348	△31,348	－
計	12,022,614	401,952	2,629,233	15,053,800	1,277,146	16,330,947	△31,348	16,299,598
セグメント利益又は損失（△）	1,712,427	153,193	132,561	1,998,181	371,605	2,369,787	△440,100	1,929,686

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業並びに玩具、雑貨等の企画、開発及び販売等を含んでおります。

２．調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．「その他」は、各店舗に設置した自動販売機の受取手数料等の金額であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「トレーディングカード販売事業」セグメントに配分されたのれんの償却額は16,930千円、未償却残高は152,377千円であります。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、従来「その他」に含まれておりました「トレーディングカード販売事業」について、事業規模の拡大に伴い量的な重要性が増したことから、新たに報告セグメントとして区分しております。なお、前中間連結会計期間のセグメント情報についても、変更後の報告セグメントの区分に基づき組み替えて表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)
該当事項はありません。